

**第59回愛知県総合教育センター研究発表会**  
**テーマ「新学習指導要領に基づく授業づくり」**  
**令和元年11月29日（金） 愛知県総合教育センター**

第59回愛知県総合教育センター研究発表会を、「新学習指導要領に基づく授業づくり」というテーマの下で、愛知県教育委員会教育長職務代理者 広沢憲治氏をはじめ、多数の来賓及び県内外から約500人の参加者を迎え、開催した。以下にこれらの概要を紹介する。

## 1 開会行事次第

- ・開会のことば
- ・所長挨拶
- ・愛知県教育委員会挨拶
- ・来賓紹介
- ・基調提案
- ・閉会のことば

## 2 講演

- ◆演題 「新学習指導要領が目指す授業づくり」
- ◆講師 横浜国立大学名誉教授  
高木展郎氏

## 3 研究発表・研究協議

次の各研究について発表と協議を行った。なお、各研究の詳しい内容については、当センターウェブページ「研究紀要第109集（令和2年4月1日掲載予定）」を御覧ください。

### ◇第1部会（小中高特）

協働共育型ミドルリーダーによるOJTの在り方に関する研究

#### 【発表・協議の概要】

「協働共育型ミドルリーダーによるOJTの在り方に関する研究」について、基調提案と研究協力校7校の実践発表を行った。

基調提案では、代表委員が校内における課題解決への取組を通して、「課題解決能力」と「同僚性の構築力」を高め、協働共育型ミドルリーダーとして成長していく様子について報告した。それらの能力を高めるための方法として、ワークシートやツールについても紹介した。また、協働共育型ミドルリーダーを中心としたOJTを、円滑に進めるための要素や条件として、OJTマップの活用、管理職によるサポート体制、複数のメンターによる組織的なOJTについて報告した。代表委員は、各校での実践を通して、若手・同僚教員の成長や児童生徒の変容、学校組織の活性化について具体的に発表した。

感想交流では、OJTを推進する上で課題となる多忙化にどのように取り組んだのかやベテラン教員へのアプローチの仕方についての質問があった。また、各研究協力校の実践発表を受け、自校にどのようにOJTを落とし込むのかや研究協力校の管理職の立場から見た本研究の成果や課題について意見が出された。

## ◇第2部会（小中高特）

カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究

### 【発表・協議の概要】

「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究」について、基調提案と研究協力校6校の実践発表、質疑応答を行った。

基調提案では、各学校でカリキュラム・マネジメントに取り組むに当たり、「現状把握」「教育課程等の検討・分析」「めざす学校像・子どもの姿の共有」「重点目標の具現化と焦点化」「授業改善、教科等横断的な視点」「評価・改善」の六つのステップごとに活用したワークシート等のツールを紹介しながら、実践の流れを説明した。代表委員からは、実践校におけるグランドデザインの作成と育成を目指す資質・能力と関連付けた授業改善への取組の成果と課題について端的に発表をした。

質疑応答では、「主担当としていちばん苦労したこと・大切に心がけたことは何か」「全教職員の協力体制をつくるために工夫や配慮したことは何か」等が質問として出され、代表委員は実践で参考となる視点で回答した。

## ◇第3部会（小中高特）

小・中学校と特別支援学校が連携して取り組む特別支援教育の充実に関する研究

### 【発表・協議の概要】

「小・中学校と特別支援学校が連携して取り組む特別支援教育の充実に関する研究」について発表した。

最初に「小・中学校と特別支援学校が連携し、特別支援学級におけるライフスキルの育成に向けた自立活動の指導について研究し、特別支援教育の充実を図る」という目的で研究を行ったことなど、研究概要を説明した。次に、代表委員によるライフスキルトレーニングプランを活用した三つの実践を報告し、全体で研究内容及び実践についての質疑応答を行った。

その後、6名の代表委員がシンポジストとなって実践を振り返り、「連携して取り組む自立活動の授業づくり」についてのシンポジウムを行った。参加者によるグループ協議では、事例を基に実態把握からライフスキルトレーニングプランを選択し、事例児童の実態に合わせた工夫点を考えながらプランの再構成をするワークショップを行った。

## ◇第4部会（小中高特）

小学校の外国語教育の在り方に関する研究

### 【発表・協議の概要】

「小学校の外国語教育の在り方に関する研究」について発表を行った。移行期間における研究協力委員による所属校の実態に応じた実践から明らかとなった小学校外国語の教科化に向けた留意点や課題を報告した。

中学年の学級担任による授業づくりの実践を通して、言語活動の充実に向けた児童の実態に応じた言語活動の設定や個別支援における学級担任の役割や強みが確認された。高学年のSmall Talkについては、語彙習得の帯活動と関連させて継続して取り組むことで、やり取りの力の向上を児童自身が実感でき、英語でのコミュニケーションへの意欲の高まることが分かった。

指導と評価の一体化に向けた試みでは、愛知県教育委員会義務教育課作成の「My English Passport」を基にした「CAN・DOリスト」の形での学習到達目標を活用した授業実践とルーブリックを活用したパフォーマンス評価の実践を報告した。

発表内容についての質疑応答を行った後、グループで情報交換を行った。情報交換では、小・中学校、高等学校、特別支援学校、指導主事を交えたグループとし、移行期間における小学校の外国語活動の実施状況や全面実施に向けた取組や課題をグループで共有した。

#### ◇第5部会（高特）

県立高等学校教育課程課題研究（国語）

##### 【発表・協議の概要】

初めに基調提案を行い、その後、研究員による授業実践の報告及びグループ協議を行った。

今回の発表では、令和4年度から始まる新学習指導要領における国語科の必履修科目である、「現代の国語」「言語文化」において思考力・判断力・表現力等を育成する手だてを、それぞれの科目において取り扱うテキストを具体的に示した上で、取り扱う領域を絞って実践例を提案した。四つの班の発表は、科目ごとの目標、内容の取り扱いの違いにも留意して実践が組み立ててあるので、班ごとの取組を比較することで科目の特性を見極めることが可能であった。また、必履修科目における文学教材を補填する意味で、「文学国語」における実践を発表の一つに加えた。

グループ協議では、「自校で実践する際に考えられる課題」について意見交換や情報共有を行った。

参加者からは、新学習指導要領における新科目への理解が深まり、今後の指導の在り方や課題が明確になったとの感想が多く寄せられた。

#### ◇第6部会（高特（高））

県立高等学校教育課程課題研究（情報）

##### 【発表・協議の概要】

県立高等学校教育課程課題研究（情報）として、生徒が授業で学んだ知識や技能を活用し、主体的、協働的に取り組むことができる探究的なパフォーマンス課題の作成や指導方法の改善案を研究してきた。昨年度と今年度の研究では、新学習指導要領において、共通必履修科目となる「情報Ⅰ」の「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータ活用」の内容を視野に入れて授業実践を行い、現行の学習指導要領の目標及び内容を踏まえたパフォーマンス課題とルーブリックを作成したことを説明した。

研究協議では、「情報Ⅰ」の三つの単元に分かれて、昨年度と今年度の各実践内容を発表した。グループで協働してパフォーマンス課題を作成し、「思考・判断・表現」の観点における妥当性、信頼性のある評価ができるように、ルーブリック及び評価方法を検討した。

#### 4 教育相談特別研修論文の内容紹介ビデオについて

##### ○県立高蔵寺高等学校 篠田 美智子 教諭

##### テーマ「精神症状を呈する生徒の理解と支援

##### ー生物心理社会立体モデル(Biopsychosocial solid model)の視点ー

学校現場にはさまざまな精神症状を訴え、生き辛さを抱える生徒が多く存在する。身体症状に現れる生徒も多く、その背景にはさまざまな要因が絡んでいるという視点を持ち、身体的、精神的に変化の大きい時期である青年期を理解し、背景を多面的（生物学的・心理学的・社会学的）に捉えることができれば、具体的な支援や学校としてどこまで対応が可能かを判断する一助になると考える。本研究では、筆者が作成した生物心理社会立体モデルを用いて、学校現場で起こり得る事例を多面的に捉え、見立て、そしてその見立てを基に具体的な対応や学校現場でできる支援方法、多職種連携の視点について考察した。

#### ○県立一宮高等学校 加藤 順子 教諭

##### テーマ「不登校生徒への対応について－思いの把握という視点から考える－」

本研究は、不登校生徒の思いを把握するという視点から高等学校教員の不登校生徒への対応について考えることをテーマとし、高等学校教員に対して質問紙調査とインタビュー調査を行った。その結果、教員は「進路の問題として扱う」「登校しやすい環境を整える」「本人の望みを優先して待つ」「思いを聞くための工夫をする」ことを重視して対応していることが明らかとなった。これらは、不登校生徒の成長を援助するという生徒指導の関わりにつながると考えられる。教員が不登校生徒に関わる時、それぞれが重視している点を活かしてチームを形成することによって、柔軟で多角的な対応が可能になると考えた。

#### ○県立東海商業高等学校 高木 由起子 教諭

##### テーマ「『現代青年』の特徴と課題－社会の変化に伴う、多元的自己と『ネット的思考』の影響－」

近年、高校の生徒たちが表面的な関わりをし、深く考えない傾向にあるように感じる。社会の流動化、情報化などの変化に合わせ、より適応的に生きる自己観として、深く思考しない多元的自己をもつ者が現れたとの示唆がある。また、ネット世界で好まれる言語形式の影響を受け、深く考えない曖昧さを欠いた短絡的思考「ネット的思考」が広まっているとの指摘もある。本研究では、現代社会に適応する形態として現れた、多元的自己と「ネット的思考」を特徴とする「現代青年」が、自身の人生においてどのような課題をもつのか、また高校ではどのようなことを意識して彼らと関わっていけばよいのかについて考察した。

#### 5 愛知県教育史編さん事業による刊行物の展示

本事業で刊行・完成した「本文編」「資料編」「年表」「資料目録」全巻を展示した。

#### 6 県入賞教育論文の展示

平成26～30年度の過去5年間の県教育研究論文入賞者（最優秀賞及び優秀賞）の論文を展示した。